



ぼくらの夢がいつまでも

熊川小学校の児童が、11月29日に土曜授業として河内川ダム工事の見学を行いました（表紙の写真9）。2日前の27日には、見学の日にはダム底のコンクリートに埋める石に記念のメッセージを書き込みました。

児童たちは、大人の手ひらサイズの石に、自分の夢や願い事、絵などをマジックで書き入れました。「一輪車がじょうずになりたい」「速く走れるようになりたい」「家族と仲良く」など、色とりどりの文字や模様が石に書き込まれ、ただ灰色一色の石が華やかな記念の石に変わって行きました。

2019年に完成する予定の河内川ダムの水底には、子どもたちの思い出がいつまでもあり続けます。

若者支援への理解を

子ども若者サポートセンターの子ども・若者自立支援セミナーが、10月17日、12月12日と続けて行われ、2月9日に最後の講座が行われます。

一般社団法人 office ドーナツトーク（大阪市）代表の田中俊英さんを講師に招き、ひきこもり、不登校などの状態にある子どもや若者に対し、どのような支援をしていくかについて、サポートセンター職員、学校教員、保護者などが熱心に学んでいます。

家庭訪問の行い方や、対象者とどのような会話をするかなどを具体的に説明し、12月の講座ではロールプレイングを行いました。

参加者は、今後の支援に活かすため、実際に支援していることなども質問しながら、子ども・若者支援への理解を深めていました。



自分たちにもできること

12月15日、鳥羽小学校で、マングローブを題材に地球温暖化防止や生物多様性について学習する「みどりの授業」が行われ、5、6年生45人が参加しました。

マングローブの植林事業を行っている東京海上日動火災保険の環境啓発活動の一環で、社員ら3人が講師を務めました。

子どもたちは二酸化炭素を根に溜め込むことができるマングローブの特徴をクイズ形式で学んだあと、地球温暖化対策として自分たちにできることをグループで話し合い、「私たちのエコ宣言」として発表しました。「近い場所へは車を使わず自転車で行く」「鉛筆削りは手動を使う」など、身近なところから地球を守るアイデアを見つけ出していました。子どもたちは真剣にメモを取りながら授業を受け、活発に手を挙げていました。



やさしく教えてあげたいな

12月10日、野木小学校1年生が「たのしいきのみのおもちゃランド」と名付けたお楽しみ会を開き、ののほな保育園の年長組17人を教室に招きました。

木の実と紙コップを使ったけん玉、つばきの実を箱に投げ入れるつばきのまといれ、木の実を振って音を出すでんでん太鼓、輪ゴムと木の実のヨーヨー、木の実のこまを手作りし園児のグループが各コーナーを回りました。

各コーナーの担当グループが遊び方を説明し、園児がおもちゃで遊ぶのですが、初めはうまく説明できず、児童も園児も戸惑う場面が見られましたが、徐々に説明も手助けも上手に出来るようになる姿が見られました。

園児を見送った児童たちは、「うまく優しく教えられた」「〇〇さんがゆっくり優しく説明できていたので、次は私もうまく説明したい」などと話していました。



活かそう！出会いの可能性

独身男性を対象にした3回シリーズのセミナー「男性力！ステップアップセミナー」が若狭町と美浜町で開催されました。11月20日に中央公民館で行われたセミナーには12人が参加し、結婚・恋愛心理カウンセラー本城稔さんによる講座に熱心に耳を傾けました。本城さんは「どの人にも無限にある『出会いの可能性』を活かす生き方を身につけましょう」と呼びかけ、「言葉は口から出る心。配慮ある言い方が大切」と、様々なシチュエーションでの具体的なコミュニケーション方法を伝授しました。

セミナーで学んだことをすぐに活かせる「婚活恋活パーティー」が12月14日に開催され、男女31人が参加しました。パーティーは本城さんによる進行で、ジェスチャーゲームや心理ゲームを交えながら参加者が自然にコミュニケーションが取れるような雰囲気が進んでいきました。この日のパーティーでは7組のカップルが誕生しました。



「命」の奇跡を学ぼう

12月18日、三方中学校で生命誕生について学習し、いのちの大切さを再確認する「いのちの授業」が行われ、1年生72人が参加しました。

敦賀市の瀧澤助産院の助産師 佐野裕子さんが講師を務め、受精卵が成長する過程をスライドで紹介したり、生徒と一緒に本物のへその緒に触れながら、その役割について説明しました。佐野さんは「へその緒がねじれているのは強度を保つため。遺伝子、しめ縄、台風など強いものはねじれている。みなさんが素直になれないと苦しむのも強く生きていくため」とエールを送り、最後に「たった一回きりの『命』であるみなさんです。どうか命を大切に」とメッセージを送りました。





ひとりで悩まず相談を

12月4日から12月10日は、人権尊重の啓発活動を行う「人権週間」でした。

12月4日は人権週間を呼びかける広報車が町内を巡回し、ショッピングセンターレピアとプラント2で街頭啓発が行われました。人権擁護委員が3人ずつに分かれ、人権相談に関するパンフレットやポケットティッシュ、カイロのセットを買い物客に配りました。

配られた「今、悩みを抱えるあなたへ」というタイトルのパンフレットには、窓口や電話、インターネットで全国各地の人権擁護委員や法務局職員に人権に関する相談ができるという内容がイラストを使ってわかりやすく掲載されています。

自分らしさって何だろう？

町内の人権擁護委員5人が明倫小学校を訪れ、人形や紙芝居を使った人権教室を開催しました。

低学年には、人権まもるくん・あゆみちゃんの人形を使って人権について勉強しようと誘い、紙芝居ではまもるくんとあゆみちゃんが、森のいじめをなくそうと活躍する「グラグラもりのおぼけ」を、委員5人がそれぞれに登場人物の声を演じ、児童たちは熱心に聞き入っていました。紙芝居の後は、児童たちが登場した動物たちに手紙を書き、「悪物だと思っていたがそうではなくて、いじめをした人をこらしめたのがすごいと思った」「いじめをやめようと言ってすごい」などと、活発に発表していました。

高学年には「白い魚とサメの子」が演じられ、自分らしさとは何かと問いかけ、一人ひとりが大切な存在であり、いろいろな人がいることを説き、児童は自分らしさの発表を行いました。



毎年出品ありがとう

12月9日、野木小学校において、「福井県小学生人権ポスターコンテスト」学校賞の伝達が行われました。

最優秀賞を受けた実績もあり、毎年多くのポスターを出品している学校の取り組みが評価されたもので、本多猛福井地方法務局敦賀支局長から感謝状が手渡されました。

児童を代表して感謝状を受け取った6年生の荷川取桃果さんは、「みんなが人の気持ちが分かるようにという気持ちを描きました」と、ポスターを描いた気持ちを話していました。

このポスターコンテストは、人権を誰にでも分かりやすく描いてもらうことによって人権について啓発する取り組みで、昨年のコンテストには、129校1884点の応募がありました。





サンタさんとの約束

12月22日、防犯を呼びかける防犯サンタが、三宅保育所を訪れました。これは防犯組合若狭地区連合会上中支部の取り組みで、上中地域の保育園を毎年順番に回っています。

まず、上中交番の萩原清孝巡查部長が、防犯のための「行かない」「乗らない」など5つの約束「いかのおすし」について話し、続いてサンタクロースが登場。66人の子どもたち一人ひとりにプレゼントを手渡しました。

子どもたちはお礼に「あわてんぼうのサンタクロース」を元気に合唱し、サンタに「プレゼントありがとう」「お家にも来てね」と声をかけていました。

はじめて麴漬、ていねいに…

12月20日、中央公民館で、「ニシンの麴漬け講習会」が三方・三十三公民館の共催で開かれました。初心者限定の講習会は今回が初めてで、この日は12人が参加しました。

まず、麴に調味料を揉み込み、切ったニシンに調味料をなじませ、人参や大根と一緒に樽に並べていきます。この過程では、具材を入れ忘れて笑いが起こったり、並べ方を見比べ合ったり、和気あいあいとした雰囲気でした。

講師の大野文子さん（井崎）は、「調味料によくなじませること。心を込めて丁寧に作業することが大切です」と美味しくできるコツを話してくださいました。

金深みどりさん（気山）は、「麴漬けが好きで作り方を知りたいと思い参加しました。みんなで作ると楽しいですね」と充実した表情でした。



年の瀬の防火、呼びかけます

12月28日夜7時、熊川区民と上中消防団による夜回り、年末警戒出発式が行われ、団員や区民、関係者など約100人が参加しました。参加者は雨の中、「火の用心、心で用心、目で用心」と呼びかけながら集落内を歩き、子どもたちも大人に続いて元気な声を響かせました。

児童館前の広場で行われた出発式では、森下町長が「今日は雨の中を出動いただき本当にありがとうございます。来年がみなさんにとって輝かしい年でありますように」と挨拶しました。式の後、消防団員らはきびきびとした動作で消防車に乗り込み警戒パトロールに出発、それぞれの持ち場の地域を巡回しました。





僕らのお酒、完成間近!

今年1月に成人する19歳の若者を中心としたメンバーが、田植えから始まり1年を通して酒造りに挑戦する「若杯者プロジェクト」がいよいよ大詰めを迎えています。この企画は、地域の職人との世代を超えた交流によってふるさとの魅力を知ってほしいと、若狭地域の青年たちが企画し、昨年の田植えから累計20～30人の若者がプロジェクトに参加しています。

1月4日、この日メンバーは鳥浜酒造で小堀安彦社長に教わりながら、しぼり出したお酒をろ過し、瓶に詰め、打栓する作業を行いました。メンバーは手作業で、一本一本丁寧にお酒を瓶に流し込んでいきました。

完成したお酒は1月12日から販売予約が始まっており、売り切れ次第終了ということです。(詳しくは、ホームページ「若杯者」で検索)

気持ち新たに筆握る

1月5日、西田公民館で書初め大会が開かれました。松村勉さんの指導のもと、西田地区の小学生17人が新年初の筆を執りました。

今年の恵方は西南西ということで、公民館の部屋に斜めに机を並べ、与えられた課題を丁寧に練習していました。一時間ほど練習をした後は、清書用の半紙に清書をしました。最後に、全員で今年の抱負を寄せ書きしました。(表紙の写真2,3)

梅の里小学校4年生の渡辺朋香さんは、「いつも習字を習っています。上手には書けなかったけど書き終えて良かったです」とほっとした様子でした。



Photo:Takako Akao



★住民リポーターさんの似顔絵: 岡本サキン



緊急時には110番です

1月10日、プラント2の出入り口で、上中交番駐在所連絡協議会と小浜警察署が、110番の日を広報するパンフレットを買い物客に手渡しました。

協議会の会員と警察官、福井県警察マスコットキャラクターのリュミーちゃんが、ボールペン、ウェットティッシュ、パンフレットなどが入った袋を手に、「今日は110番の日です」と買い物客に呼びかけました。

中には、リュミーちゃんと握手をしたり、抱っこをしたりする子どももいて、周囲の大人は微笑ましく見守っていました。

パンフレットには、110番のかけ方や悪質商法の具体例を、いろはカルタのように分かりやすく書いたものが入っており、緊急時の対応など、いざというときに役立つことが書かれていました。

地域のカラー伝えていきます



みかた公民館だより



鯖街道熊川

公益社団法人 全国公民館連合会が2年に一度開催している「第5回全国公民館報コンクール」で、三方公民館の「みかた公民館だより」と、熊川公民館の「鯖街道熊川」が奨励賞を受賞しました。

8つの公民館の中で唯一3つの小学校区を抱える三方公民館は、タイトルの横に対象区域を表記したり、人口の表を校区ごとに分けて記載するなど、住民に小学校区が浸透するよう工夫を凝らしています。三方公民館の村上さんは、「読んだ方にくすつと笑ってもらえると嬉しい」そうで、住民の人柄が浮かぶようなあたたかい記事がちらりばめられた冊子です。

「鯖街道熊川」は、とてもカラフルな紙面が目を引きまします。公民館報を少しでも多くの人に手に取ってもらいたいという熊川宿公民館の大宮さんは、「地域のみなさんが頑張ってくくださるおかげで行事も多く、紙面にもぎやかになります。みなさんの力です」と笑顔で話しました。

消防車の列、白銀の中を

1月10日、若狭消防組合上中分署・上中消防団の出初式が行われました。

前日夜からの雪で、会場となったパレア若狭駐車場は真っ白。赤い消防車が列を作り、そこから吹き出す一斉放水が美しく弧を描いていました。

パレードは雪のために中止されましたが、観閲式、分列行進と、6つの分団がそれぞれに隊列を組み、きびきびと整列、行進していました。

出初式の後には5年、10年、15年、25年など、勤続年数に応じて、管理者や消防協会、消防団長、防火推進協会などから表彰が行われました。



雪の中をキビキビと

1月4日、三方消防団の出初式が行われました。正月の雪が残るハス川の土手には、各分団の積載車がずらりと並び、積載車から伸ばされたホースからは、総指揮者の鳥居副団長の号令に合わせ、水が勢いよく放水されました。一斉放水終了後は、レピア横の通りを分列行進し、敦賀美方消防組合副管理者である森下町長から観閲を受けました。

沿道からは、団員の家族や多くの住民が、各分団ごとに隊列を組み、きびきびとした動作で行進する団員を見守っていました。

○先月号16ページ「知事杯争奪ゲートボール大会 選手のみなさん」に、中畑恵子さんのお名前前の記載がありませんでした。訂正してお詫びいたします。